

厳しい寒さの日が続きますが、寒さを超えると花粉症の方にはつらい季節がやってきますね。今回はアレルギー性鼻炎についてです。花粉症はアレルギー性鼻炎の代表例ですが、花粉以外が原因のアレルギー性鼻炎もあります。



●免疫とはどんなもの？

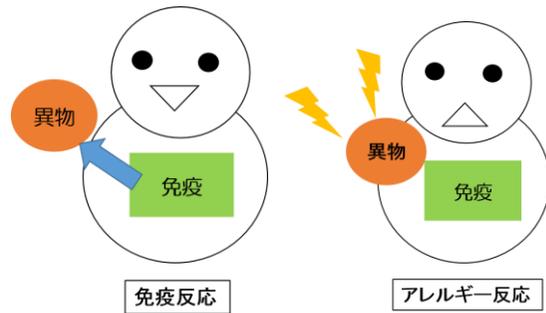
免疫反応は、外からの異物などを排除して、生体を正常な状態に保つためのシステムです。しかし、免疫機能が正常に働かない場合には感染しやすくなる、アレルギー、自己免疫疾患、悪性腫瘍などの生体にとって良くない反応を引き起こすこともあります。

☆免疫には2種類あります☆

自然免疫	生体が生まれながらにもっている免疫機構です。異物や病原体が体内に入ってきたときに、それらを即時に排除しようとする防御反応を起こします。
獲得免疫	自然免疫で異物や病原体を処理しきれなかった場合、第二次の防御としてはたらく免疫機構です。同じ異物や病原体が入ってきたとき、2回目以降は初回よりも速やかで強力な防御反応を起こします。

●アレルギーとは？

免疫反応は本来、異物の侵入から生体を守るために働き、生体に有利に作用します。しかし、その免疫反応が病的に機能して生体に不利に働く場合をアレルギーと言います。



●アレルギー性鼻炎とは

アレルギー疾患の代表例としてアレルギー性鼻炎があります。アレルギー性鼻炎にはくしゃみ、鼻水、鼻づまりの3つの症状を示す特徴があります。

☆アレルギー性鼻炎には通年性と季節性があります☆

種類	特徴	アレルゲン
通年性	発症年齢は3~7歳が多く、気管支喘息を併発しやすい	ダニが主で、動物の上皮やカビなど
季節性	学童期以降に発症することが多く、アレルギー性結膜炎を併発しやすい	季節によって、スギ、イネ、ヨモギやブタクサなど

通年性はハウスダスト、季節性（花粉症）は花粉がアレルゲンの中心となります。季節性は、通年性に比べてアレルゲン曝露の期間が短いため好発年齢が遅くなっています。

アレルギー性鼻炎を抑える治療において大切なことは、アレルゲンを回避することです。

●アレルギー性鼻炎に使うお薬について

【症状を抑えるためのお薬】

☆次の3種類のお薬を使用して治療します☆

①抗ヒスタミン薬

ヒスタミンの作用を抑えることでアレルギー症状を抑えるお薬です。副作用として口渇や眠気を起こすことが知られています。このお薬を飲んでいるときに車の運転等を行う際は使用を控えましょう。

②局所ステロイド薬

鼻腔に噴霧するタイプのお薬です。炎症を抑えて鼻づまり、鼻水、鼻のかゆみ、くしゃみなどを抑えるお薬です。

③抗ロイコトリエン薬

ロイコトリエンを抑えることで気管支の通りを良くしたり、鼻水等の分泌液を抑えるお薬です。

【減感作療法】

原因アレルゲンの抽出物を少しずつ増やしながら体に入れていき、原因アレルゲンに対して体を慣らしていくことでアレルギー発症を抑える治療方法です。ここ最近、以前よりも簡単に使用できる舌下錠が出てきており、アレルギーの治療が行いやすくなっています。減感作療法では、どのお薬を使用しても比較的長期間継続することが必要となります。

アレルゲン	名称	剤形	治療方法
ダニ	アシテア	錠剤	・舌下において使用 ・自宅で使用できる
	ミティキュア	錠剤	・舌下において使用 ・自宅で使用できる
	治療用ダニアレルゲンエキス	注射	・注射 ・病院で注射してもらう
スギ	シダトレン	エキス	・舌下にエキスを垂らして使用 ・自宅で使用できる
	治療用アレルゲンエキススギ花粉	注射	・注射 ・病院で注射してもらう

スギアレルギーに対する減感作療法は、スギ花粉流行期に治療を開始することはできません。（流行時期の9~20週間前に開始）ダニアレルギーは、減感作療法中であってもダニ除去のための掃除等は、続けて行うことが大切です。

<参考>

病気が見える vol.6 免疫・膠原病・感染症

薬が見える vol.2

医学大事典第2版

PMDA添付文書情報メニュー

